

平成22年11月12日
独立行政法人
日本原子力研究開発機構
敦賀本部

高速増殖原型炉もんじゅの炉内中継装置落下に係る状況について
(お知らせ)

高速増殖原型炉もんじゅは、燃料交換作業の片付け作業中に発生した炉内中継装置の落下について原因調査等を進めております。

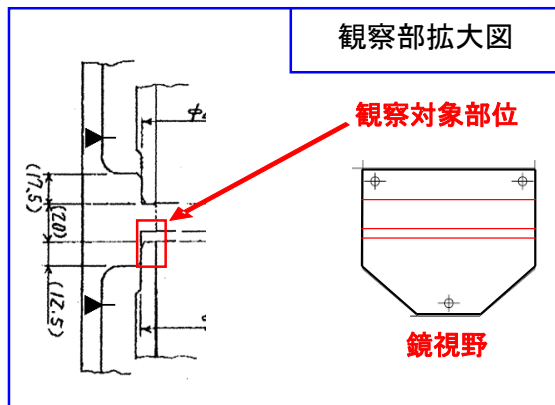
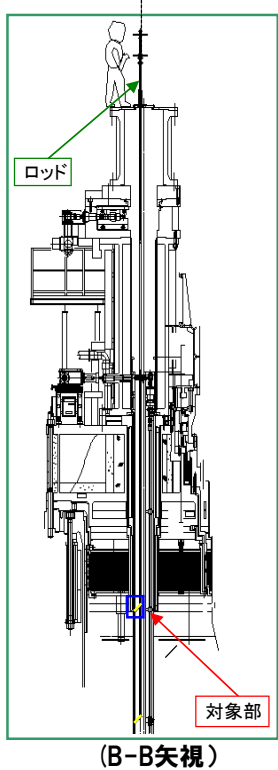
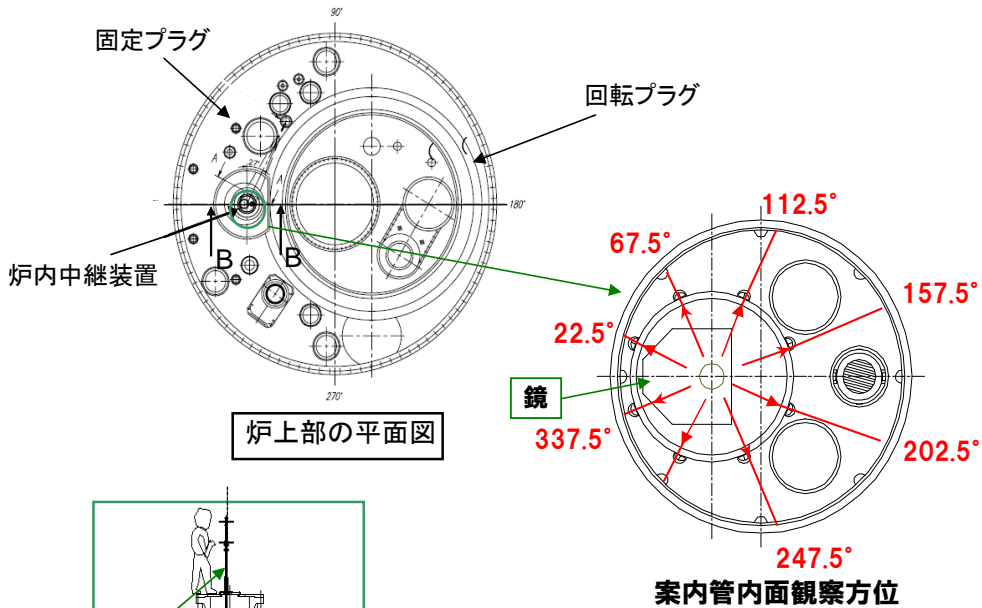
炉内中継装置の原子炉容器からの引抜きについて、総合的に評価・検討を行うため、内面観察の結果の解析を行うとともに、予備孔を利用した炉内中継装置案内管の接続部近傍の外面観察に関する検討を進めています。

11月9日の炉内中継装置の内面観察の結果について、当日の発表では、 337.5° 方向のギャップの値を公表しましたが、測定した8箇所状況は添付のとおりです。

添付資料：炉内中継装置の案内管内面（上部側）観察結果

以上

炉内中継装置の案内管内面(上部側)観察結果



22.5° (ギャップ量:14.8mm)	67.5° (ギャップ量:14.9mm)	↑ ↓ ギャップ
112.5° (ギャップ量:14.8mm)	157.5° (ギャップ:14.6mm)	
202.5° (ギャップ量:14.5mm)	247.5° (ギャップ量:14.7mm)	
292.5° (ギャップ量:14.7mm)	337.5° (ギャップ:14.5mm)	

内側案内管上部側の観察では、全ての方位において、初期値(5~7mm)以上のギャップ(14.5~14.9mm)が確認されました。計測値は最大で0.4mmの差がありましたが、隙間の大きいところが一定の方位に集中していないことから、計測誤差によるものと判断しています。